

に敍勲を拝辞されたからである。それ故、この墓は無位無冠の碩学にふさわしい安息所であろう。弟子の一人として、両先生のご厚意に対して深くお礼を申しあげたい。先生はここで、野呂栄太郎・舟木重信・本田喜代治などの諸先生たちと、毎日歓談されておられることを想像すると、ほほえましい。

終りに、私の拙ない一首を先生に捧げたい。諸先生よ、このぶしつけを、おゆるし下さい。

喜寿を迎え疾患に耐えて我が恩師

迫力みてる著書を贈らる

(51・3・29)

小林良正先生略年譜

- 1898年 3月 東京市に生まれる。父は小林丑三郎氏。
- 1920年 3月 第一高等学校一部丙類卒業
- 1923年 3月 東京帝国大学経済学部経済学科卒業
- 4月 東京帝国大学農学部講師に就任
専修大学講師に就任
- 1924年 4月 明治大学政経学部講師に就任
- 1929年 4月 専修大学教授に就任
- 1930年 3月 東京帝国大学農学部講師を辞任
- 5月 山田盛太郎、平野義太郎、三木清らと共に「共産党シンパイザー事件」（治安維持法違反事件）で起訴。
- 6月 専修大学教授を一時退職
明治大学政経学部講師を辞任
- 1931年 2月以降 「日本資本主義発達史講座」（刊行開始1932年5月）に野呂栄太郎らと参画、執筆
- 1933年以降 雑誌「歴史科学」、「経済評論」などに執筆しながら労農派との本格的な日本資本主義論争に参加
- 1936年 7月 「コム・アカデミー事件」で山田盛太郎、平野義太郎らと共に逮捕、8カ月間警察署に未決で留置される。起訴猶予。このとき以来「口ひげ」をのばす。
- 1938年 9月 服部之総と共に花王石鹼株式会社五十年史編纂事務嘱託（～1940年10月）

- 1942年 9月 海軍嘱託（ジャワ赴任）となりインドネシア社会の調査・研究に従事
- 1946年 5月 ジャワから帰還
- 10月 専修大学講師再任
- 1947年 2月 専修大学教授に復職
- 5月 明治大学講師に再任
- 11月 専修大学経済学部長就任（～1949年3月）
- 1948年 4月 文部省人文科学委員となる
- 5月 明治大学兼任教授に就任
- 8月 労働省職業安定委員となる
- 1949年 4月 新制専修大学初代学長に就任（～1952年3月）
- 専修大会計学研究所長を兼任
- 1950年 4月 専修大学短期大学部長を兼任
- 大河内一男氏の後を襲い専修大学社会科学研究所長を兼任
- 6月 経済学博士の学位を授与される。学位論文「日本における資本主義の成立」
- 1952年 4月 専修大学大院主任に就任（～1956年3月）
- 1953年 11月 日本学術会議第三期会員となる
- 1955年 昭和30年度学術奨励審議会科学研究費等分科審議会委員となる
- 1956年 4月 専修大学大学院長に再任（～1966年3月。2期）
- 6月 ドレスデン市750年祭に日独文化の会代表として東独、西独、オーストリア等を歴訪
- 1958年 4月 専修大学長に再任（～1961年3月。第5代）
- 1961年 1月 小林良正博士還暦記念論文集「日本資本主義の諸問題」刊行される（未来社）
- 1963年 6月 日本・ドイツ民主共和国友好協会代表委員に選ばれる
- 1966年 3月 願いにより専修大学大学院長を辞任
- 1967年 12月 専修大学における最終講義を行う。「私の歩んだ道」
- 1968年 3月 専修大学を停年退職。叙勲の申入れを固辞。
- 6月 専修大学名誉教授となる
- 1970年 4月 専修大学大学院専任教授に就任（～1974年3月。大学院経済学研究科所属）
- この間、難病ヘルペスと闘いながら自宅講義を続ける
- 1974年 3月 専修大学大学院専任教授を任期満了のため退職

4月 専修大学顧問となる

10月 ドイツ民主共和国建国25周年に当りドイツ民主共和国諸国民友好連盟から友好功労賞を贈られる

1975年12月29日 急性心不全のため永眠 享年77才。九品仏浄真寺に埋葬さる。

小林良正先生著作目録

一 単行本

(1) 著書

社会経済史概論講義案(1924・4) 法曹閣

ドイツ経済史(1927・9, 1928・2, 3) 「社会経済体系」第11・15・16巻 日本評論社

* 「ドイツ経済史要」所収

経済史(1928・3) 「大思想エンサイクロペディア」第15巻 経済学 第一部 春秋社

* 「経済史論考」所収

ドイツ経済史要(1928・12) 「社会科学叢書」第14編 日本評論社

経済史(1929) 専修大学創立50周年記念論文集 「理論政策—経済学論集」 白鳳社

経済史論考(1930・3) 「春秋文庫」35 春秋社

現代のマルクシズム—ロシア(1931・10) 「経済学全集」第27巻 マルクス主義経済学説の発展 下 改造社

交通機関の発達と内外市場の形成=展開 上・下(1932・6, 8) 「日本資本主義発達史講座」 第二部 資本主義発達史 岩波書店

* 「日本産業の構成」所収

明治維新における商工業上の諸変革(1933・6) 「日本資本主義発達史講座」第一部 明治維新史 岩波書店

* 「日本産業の構成」所収

日本産業の構成—その形成=発展過程の分析(1935・8) 白揚社

露西亜社会経済史(1936・3) 「各国社会経済史叢書」第7巻 章華社

花王石鹼五十年史 花王石鹼五十年史編纂委員会・服部之総共著(1940・10) 大日本油脂株式会社

石鹼の歴史(1943・3) 河出書房

- 大東亜植物油脂資源論（1943・4） 日光書院
- ロシア社会経済史 再版（1948・10） 八雲書店
- 戦後産業政策の諸問題（1948・11） 「戦後経済政策の批判」 政治経済研究所
- インドネシア—独立のための闘争（1949・2）潮流講座「経済学全集」第一回配本 潮流社
- 日本産業の構成 再版（1949・5） 白揚社
- 日本資本主義の生成とその基盤（1949・9） 日本評論社
- 東南アジア社会の一類型—インドネシア社会構成史（1949・11） 「社会構成史体系」
- 第二部 東洋社会構成の発展 第四回配本 日本評論社
- 徳川鎖国（1954・1） 三和書房
- 第二次大戦後の周期的恐慌の性格規程 牧村謙・西原文夫共著（1954・5） 「日本資本主義講座」第六巻 経済危機の深化と恐慌 岩波書店
- アジア的生産様式研究（1970・3） 大月書店
- 西ヨーロッパ封建制の展開（中世篇）—唯物史観封建経済史試論（1970・7） 大月書店
- 私の歩んだ道（1968・8） 小林・阿部・三島教授最終講義集「学問への道」 専修大学経済学会
- 日本資本主義論争の回顧（1975・盛夏） 自費出版，1976年4月白石書店より再刊
- (2) 翻訳
- アシュレー著 英国経済史講話（1926・4） 章華社
- リヤザノフ編 マルクスの支那印度論（1927） 巖松堂
- ルカッチ著 組織の方法論（1927） 白揚社
- ブハーリン著 金利生活者の経済学（1928・7） 「スターリン・ブハーリン著作集」第4巻 ブルジョア経済学批判 白揚社
- マルクス著 ゴットフリート・キンケル（1928・10） 「マルクス・エンゲルス全集」第4巻 改造社
- ウェルトハイム・ホフマン著 階級社会の諸問題（1928） 白揚社
- アレックス・ラドー著 帝国主義の現勢図（1931） 「プロレタリア地図」第1輯上巻 南蛮書房
- ブハーリン著 金利生活者の経済学 再版（1936） 白揚社
- ハンス・エルンスト・ポッセ著 ドイツの経済学（1939・8） 「新独逸国家大系」第9巻 経済篇 I 日本評論社

レオ・ヒューバーマン著 資本主義経済の歩み 上・下 雪山慶正共訳(1953・1, 4)
岩波書店

レオ・ヒューバーマン著 アメリカ人民の歴史 上・下 雪山慶正共訳(1954・9, 11)
岩波書店

(3) 編著

新しきドイツ写真集(1941・12) 日光書院

新独逸政治経済語彙(1942・8) 日光書院

二 論文

土地所有権の原始的形態について(1923・2) 経友4号 東京帝国大学経友会

歴史における人間の役割(1926・7) 政経論叢1巻2号 明治大学政治経済研究所

十六世紀独逸農民戦争について 上・下(1926・1927) 社会学研究1巻4号, 2巻1号
社会学研究刊行会

歴史学派の正体(1928・7) 経済往来3巻7号 日本評論社

*「経済史論考」所収

唯物史観経済史(1929・9) 社会科学5巻2号 改造社

*「経済史論考」所収

幕末ギルドの特質に関する一考察—「天保改革」を中心として観る(1933・10) 改造15
巻10号 改造社

*「日本産業の構成」所収

十九世紀後半・ロシアの雇役制度について(1933・11) 歴史科学2巻9号 白揚社

*「日本産業の構成」所収

いはゆる「近代的家内工業」について(1933・12) 歴史科学2巻10号 白揚社

*「日本産業の構成」所収

維新史歪曲の一類型(1934・2) 歴史科学3巻2号 白揚社

土地問題歪曲の「幕末版」(1934・2) 読書3巻7号 読書社

*「日本産業の構成」所収

日本における徭役労働の残滓とその意義(1934・9) 経済評論1巻1号 叢文閣

*「日本産業の構成」所収

日本における産業発達の特質(1934・11) 教育2巻11号 岩波書店

*「日本産業の構成」所収

明治維新における綿業の再編成(一)～(四) (1934・11, 12, 1935・2, 3) 経済評論 1 卷 3 号・4 号 叢文閣

* 「日本資本主義の生成とその基盤」所収

徳川幕藩機構のもとに於ける土地政策の基調 (1935・1) 歴史科学 4 卷 1 号 白揚社

* 「日本資本主義の生成とその基盤」所収

榊田民蔵氏の歴史的役割 (1935・1・28) 帝国大学新聞

幕藩治下における新田開発とその原型 (1935・4) 歴史科学 4 卷 5 号 白揚社

* 「日本資本主義の生成とその基盤」所収

徳川＝幕藩治下における「町人請負新田」の性質について (1935・12) 歴史科学 4 卷 13 号 白揚社

* 「日本資本主義の生成とその基盤」所収

足利時代対外貿易の性質 (1936・5 学位参考論文) 経済評論 3 卷 5 号 叢文閣

産業復興計画における輸出入バランス主義の検討 (1947・3) 潮流 2 卷 3 号 潮流社

経済復興計画における完全雇傭の問題 (1947・7) 経済評論 2 卷 7 号 日本評論社

経済復興計画と国民の生活水準 (1947・10) 世界評論 2 卷 4 号 世界評論社

帝国議会における封建論争 (1947・10) 人民評論 3 卷 6 号 伊藤書店

「経済白書の具体的意図」上“民主的錯覚の培養” 下“危機の技術的解釈” (1947・10・9, 16) 東京大学新聞

復興構想の貧困 (1948・3) 大学 5 号 東京大学社聞社出版部

総合対策と長期計画 (1948・3) 政経調査資料 10 号 政治経済研究所

ポーレーよりストライクへー対日賠償問題の推移が意味するもの (1948・5, 6) 改造 29 卷 5, 6 号 改造社

外資導入と労働階級 (1948・7) 労働評論 3 卷 7 号 毎日新聞社内労働協会

いわゆる「二重の帝国主義」について (1948・7) 潮流 3 卷 6 号 潮流社

「経済復興計画」と外貨導入 (1948・8) 政経調査資料 12 号 政治経済研究所

日本経済の志向 (1949・6) 経済評論 4 卷 6 号 日本評論社

戦後経済政策小史 (1949・9) 歴史科学 1 号 明治大学歴史科学研究会

日本における資本主義の成立 (1950・6 学位論文)

植民地統治・経営の一類型—オランダ東インド会社の場合 (1951・5) 政経論叢 19 卷 5 号 明治大学政治経済研究所

十九世紀におけるオランダのインドネシア植民政策（1952・1） 専修大学論集1号 専修大学学会

民族資本と民族主義（1952・10） 経済評論7巻10号 日本評論新社

明治維新によって齎された日本資本主義の産業構造（1953・5） 経済史学第6輯（復刊1号） 早稲田大学経済史学会

ロシア史の時代区分（1955・6） 専修大学論集8号 専修大学学会

インドネシア共和国（1956・4） 「世界歴史事典」第1巻 平凡社

日本経済の「二重構造」について（1960・2） 経済セミナー40号 日本評論新社

戦後循環論争における理論的諸問題（1961・6） 専修大学論集26号 専修大学学会

戦後循環論争における具体的諸問題（1962・2） 専修大学論集28号 専修大学学会

封建制地代論（1967・12） 専修経済学論集5号 専修大学経済学会

大塚久雄教授の方法について（1968・7） 経済51号 新日本出版社

私の歩んだ道—風雪の中の学問研究（1968・11） 専修経済学論集6号 専修大学経済学会
向坂氏らの「講座派」批判への反批判(1)~(3)（1973・12, 1974・3, 4） 経済116・119・120号 新日本出版社

* 「日本資本主義論争の回顧」所収

明治維新論（1974・6） 経済122号 新日本出版社

* 「日本資本主義論争の回顧」所収

日本資本主義の形成（正・つづき）（1974・7, 8） 経済123・124号 新日本出版社

* 「日本資本主義論争の回顧」所収

日本帝国主義の原初的段階（完）（1974・10） 経済126号 新日本出版社

* 「日本資本主義論争の回顧」所収

三 時論・その他

学界余談—偶感（1927・5・2） 東京朝日新聞

貿易再開と産業復興（1947・6・28, 29） 四国経済新聞

貿易再開と中小工業—国際的悪名を除くもの・下からの合理化（1947・7・10） 東京大学新聞

東南亜民族独立運動—1948年のインドネシアをめぐる展望（1948・1・8） 国際タイムス

僕の描いた復興設計図—自主独立の民主国（1948・1・21） 週刊文化タイムズ

対日賠償におけるストライク案の意味（1948・4・20） 明治大学新聞

- ストライク案とアジアの復興 (1948・4・26) 国際タイムス
- 五カ年計画「試案」への批判と要望 (1948・6・1) 政治新聞
- 五カ年計画と外資導入—不安定な経済復興 (1948・6・30) 三田新聞
- 経済復興と中間安定 (1948・7・18) 西日本新聞
- インドネシアの農業 (1948・9) 新農芸3巻9号 河出書房
- 植民地根性について (1949・5) 思想の科学4巻4号 先駆社
- 一般的危機について (1949・5・25) 明治大学新聞
- 苦悶する独占資本—経済危機は克服できるか (1949・6・10) 三田新聞
- 資本主義問答 (1950・7) 改造31巻7号 改造社
- 日本経済史断片—石嶮の渡来について (1940・10・25) 一橋新聞
- ドッジラインは貫徹しうるか (1950・2) 社会科学2号 伊藤書店
- 占領は日本に何を齎したか—経済 (1951・10) 中央公論67巻2号 中央公論
- 再軍備は何をもたらすか—経済の場合 (1951・10・5) 明治大学新聞
- 今日における「植民政策」の意義 (1952・1・10, 20) 中央大学新聞
- 1952年度後半の危機—政治 (1952・11・5) 東北大学新聞
- 東ドイツ科学アカデミーの経済科学研究所を訪う (1956・12) 経済評論11巻11号
- 日本評論新社
- 大学制度への反省と構想 (1960・1) 大学時報8巻31号 日本私立大学連盟
- 戦後循環論争の問題点 (1961・7) 日本資本主義構造研究会月報5号 専修大学社会科学研究所
- 小林良正先生を囲んで—専修大学社会科学研究所月報創刊100号記念, ききて 加藤幸三郎
森川喜美雄・殿村晋一 (1972・1) 専修大学社会科学研究所月報100号 専修大学社会科学研究所
- 経済史とわたしの歩み (1973・5) 経済109号 新日本出版社
- 四 書評・紹介
- 野村兼太郎 英国資本主義成立史 (1929・3) 社会科学5巻1号 改造社
- *「経済史論考」に「混乱せる折衷主義」と改題して所収
- ルカッチの弁証法 (訳) (1926・9・10) 専修大学新聞
- 山田盛太郎 日本資本主義分析 (1934・3・5) 帝国大学新聞
- 農村踏査その他 (1935・2・4) 帝国大学新聞

東北地方史誌文献—産業史的観点を中心として（1935・8）歴史科学4巻9号 白揚社
柚木重三 灘酒経済史研究（1941・1・9）帝国大学新聞
小野晃嗣 日本産業発達史の研究（1941・5・26）帝国大学新聞
信夫清三郎 近代日本産業史序説（1942・6・1）帝国大学新聞
経済安定の構想—新刊書を中心として土屋清氏との往復書簡（1948・8・11）日本読書新聞
政治経済研究所 恐慌の理論（1948・9・20）明治大学新聞
平野義太郎 日本資本主義の構造（1950・1・10）三田新聞
日本貿易史の研究（文献紹介）（1950・2・15）大学新聞
山田盛太郎編「変革期における地化範疇」を読んで（1951・1）思想391号 岩波書店
福富正義編訳「アジア的生産様式論争の復活」を読む（1970・3）社会科学年報4号 専
修大学社会科学研究所

〔小林良正博士還暦記念論文集「日本資本主義の諸問題」（編集代表山田盛太郎，発行所
小林良正博士還暦記念論文集刊行会）付録，森下澄男・大友福夫共編「小林良正博士著
作目録」および小林良正「日本資本主義論争の回顧」（白石書店），その他による〕

（泉 武夫 記）

<附記> 今年1月19日に執行された「故小林良正先生永別の会」の際，数名の先生から心
温まる永別の言葉と，さらに多くの方から弔電を頂戴しましたが，本号では紙数の都合で4名
の方のお言葉をここに収めさせて貰いました。諸先生方に厚くお礼を申し上げます。失礼でご
ざいですが，諸先生をご紹介させていただきます。

相馬 勝夫 （葬儀委員長・専修大学長）

平野 義太郎 （友人代表・日本平和委員会会長）

宇佐美 誠次郎 （日本ドイツ民主共和国友好協会理事長・法政大学大原社会問題研究所
所長）

望月 清司 （教え子代表・専修大学教授・経済学博士）

森下 澄男 （専修大学教授）

泉 武夫 （専修大学助教授）

神奈川県川崎市多摩区生田4764

専修大学社会科学研究所 電話（044）911-8480（内線33）

（発行者） 大友福夫